EIDAI

S444

室内ドア

片開きドア本体　トイレドア本体

親子ドア本体　袖壁パネル

ピボット蝶番タイプ

施工・取扱説明書

このたびは、室内ドアをご採用いただきまして誠にありがとうございます。

施工される方へ⊖開梱時において、万一、梱包や製品にキズ等がある場合は、施工前にご購入先まで連絡をお願いいたします。施工後のお申し出に対しては、当社としては責任を負いかねますので、ご了承願います。また本説明書に基づき正しく施工後、本説明書を必ずお客様へお渡しください。

お客様へ⊖ご使用前に必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになられたあと、大切に保管してください。

安全上のご注意

■表示内容を無視して誤った工事・使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明します。

⚠注意	**この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。**

■お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明します。

⃠	**この図記号は、製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。**	❗	**この図記号は、製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。**

もくじ

お取り扱い上のご注意・・・・・・・・・・2
1．部材・部品表・・・・・・・・・・・・3
2．姿図・・・・・・・・・・・・・・・・4
3．施工手順
　3－1．施工前の確認・・・・・・・・4
　3－2．ドア本体の吊り込み・・・・・5
　3－3．フランス落し受けプレートの取り付け・・6
　3－4．レバーハンドルの取り付け・・6
4．施工終了後の調整方法・・・・・・・7
5．袖壁パネル部材・部品表・・・・・・・・8
6．姿図・・・・・・・・・・・・・・・・・9
7．袖壁パネルの施工
　7－1．固定桟の取り付け・・・・・・10
　7－2．袖壁パネルの取り付け・10～11
8．養生・お手入れ方法
　8－1．養生・・・・・・・・・・・・・12
　8－2．お手入れ方法・・・・・・・・12
9．使用上のご注意・・・・・・・・・・・12

お取り扱い上のご注意

以下の注意事項は、施工される方や住まわれる方への危害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

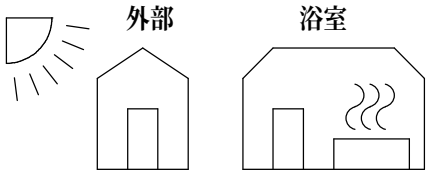
⚠注意

●間違った施工は思わぬ事故や故障の原因となります。また本説明書と異なった施工で発生した製品の不具合についての返品・取り替えはご容赦ください。

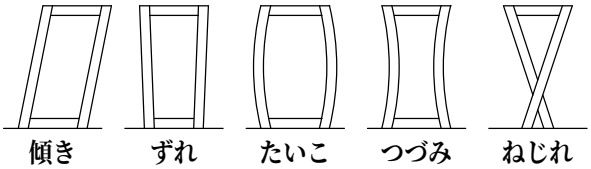
●本説明書は当社カタログ標準品に準じた寸法などの表示をしております。特注・特寸対応した製品については、現品のサイズ・加工などを確認のうえ施工を行ってください。

●本製品は、ホルムアルデヒドなどの空気環境を考慮したものですが、施工の際にご使用になる現場調達品（飼木・接着剤など）によっては空気環境対策外の製品となる場合がありますのでご注意ください。

当社「室内ドア」は、一般住宅用（室内専用）です。業務用や屋外または屋外に面する場所や浴室などに使用しないでください。



ドア枠を施工する際は水平・垂直を確認し、下図のような状態にならないように取り付けてください。ドアが閉まりにくくなったり、すき間が出来る原因となります。



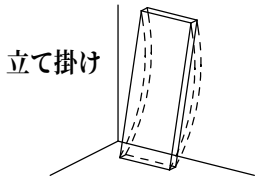
ドア枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、乾燥した飼木をいれてください。

製品施工後は水などで、ドア本体・ドア枠をぬらさないようにしてください。

コンクリートやモルタルに直接施工しないでください。やむを得ず施工する場合は、必ず防水処理をしてください。

開梱後、長く放置しておくと反りや変形の原因になりますので、すみやかに施工してください。

施工が完了するまでは、ドア本体や枠セットを水平に保管してください。立て掛けた状態での保管は反り発生の原因となります。



本製品の組み立て・施工時には同梱の指定ビスを使用してください。他のビスを使用すると、部品・部材の脱落や枠の垂れ下がり・ゆるみなどの原因となります。（本説明書内で「現場調達」と記載している場合は除きます。）

建築工事中はドア本体を養生・保全し、施工完了後に吊り込むことをおすすめします。

お手入れ方法・使用上のご注意は１２ページをご覧ください。

1．部材・部品表

■建具本体

部材名・形状		入数	部材名・形状		入数
ドア本体		1	ストライク （親子ドアのみ）	（親子ドア本体〔子ドア〕に取り付け済み）	1
			フランス落し （親子ドアのみ）	（親子ドア本体〔子ドア〕に取り付け済み）	2
スモールライト （トイレドアのみ）	（トイレドア本体に取り付け済み）	1	フランス落し受けプレート （固定ビス付き） （親子ドアのみ）		2
振れ止め金具	※1 （ドア本体に取り付け済み）	1	施工・取扱説明書	（本説明書）	1
ストライカーカバー （ファインモーション付のドアのみ）	※2	1			

※1　DOH＝１９９０mmのドアには取り付いていません。
※2　取り付け方法については、「開きドアファインモーション金具セット施工説明書」をご参照ください。

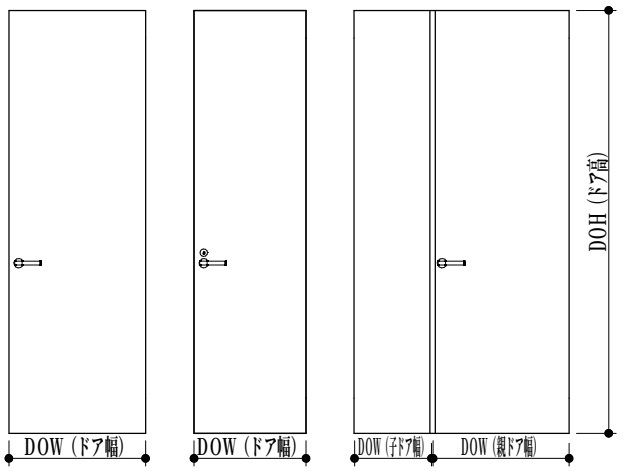
■レバーハンドルセット（別売品）

※レバーハンドル、座の形状は、品番によって異なります。

レバーハンドル		1	ケース錠		1
座 （表示錠、間仕切錠、シリンダー錠の場合は、それぞれのパーツが一緒にセットされます。）		1	説明書	（レバーハンドルセットに同梱）	1

2．姿図

■片開きドア・トイレドア・親子ドア



（品番例）

ＺＤ－１ＤＰＫＢ３１☆※（Ｌ／Ｒ）

- 商品連番
- 片開きドア：D
  トイレドア：T
  親　子ドア：P
- ピボット蝶番
- ハンドル加工
- 開きFM付：B
  開きFMなし：N
- 幅を表す記号
  - 1；592mm（トイレドア）
  - 1；408mm（子ドア）
  - 1；722mm（親ドア）
  - 1；677mm（片開きドア）
  - 2；694mm（片開きドア）
  - 3；722mm（片開きドア）
- 高さを表す記号
  - 5；1990mm
  - 6；2250mm
  - 1；2362mm
  - 2；2462mm
- デザイン記号
- 色記号

3．施工手順

3－1．施工前の確認

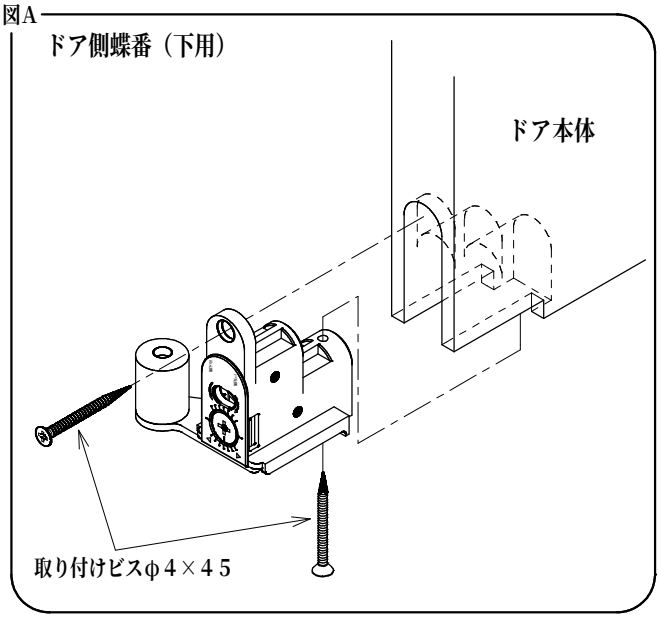
①施工前にドア枠が、ドア枠セットに同梱されている施工・取扱説明書に基づいて正しく施工されているか確認して下さい。

②枠側の蝶番が、縦枠に正しく取り付けられているか確認してください。

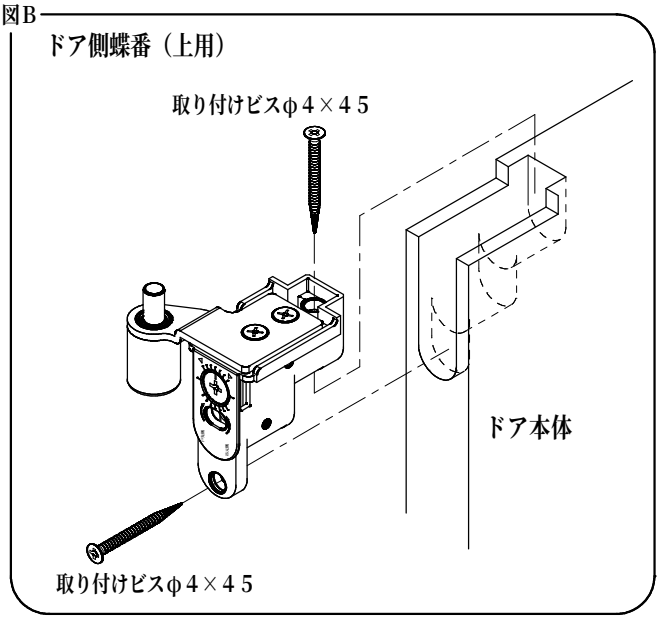
3－2．ドア本体の吊り込み

①ドア側蝶番の上用、下用それぞれを、ドア本体に施されている加工部へ差し込み、同梱の取り付けビスで固定してください。

図A

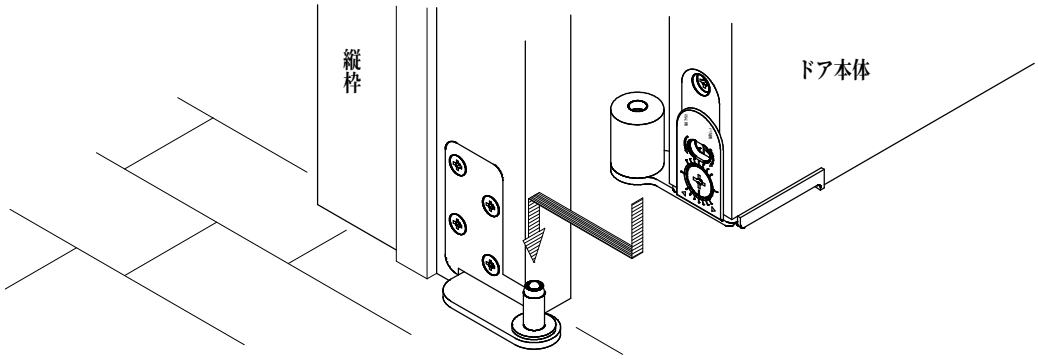


図B



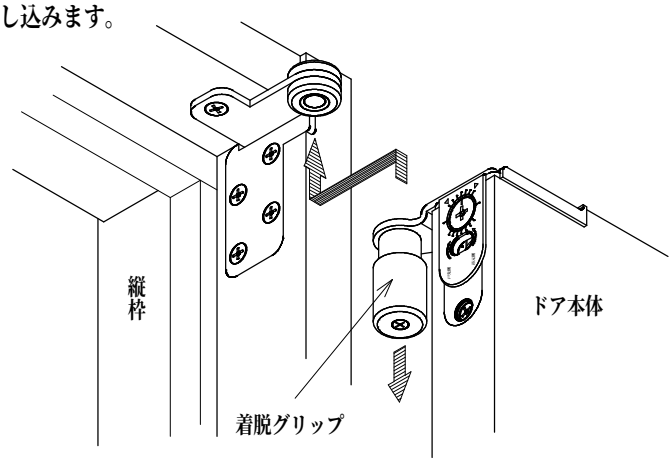
お願い 蝶番の取り付けは、ドア本体の上下と蝶番の上下左右を確認のうえ行ってください。

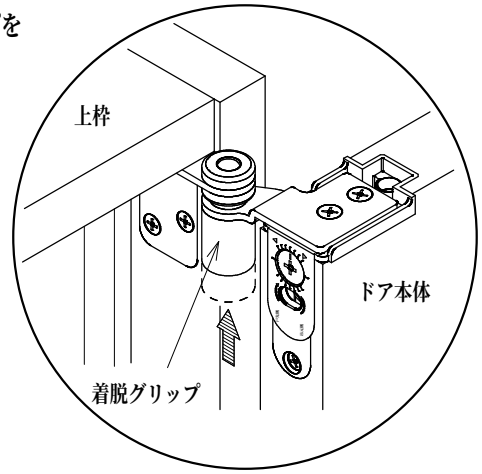
②枠側蝶番（下用）の軸に、ドア側蝶番（下用）を差し込みます。



②枠側蝶番（上用）の軸に、ドア側蝶番（上用）を差し込みます。

・着脱グリップを引き下げながら、枠側蝶番の穴にドア側蝶番の軸を当てて、着脱グリップを離して差し込みます。





！ 上部蝶番軸を差し込み、ドア本体が吊り込まれるまでにドア本体が倒れないようご注意ください。

※ドア本体の外し方は、本手順と逆手順となります。

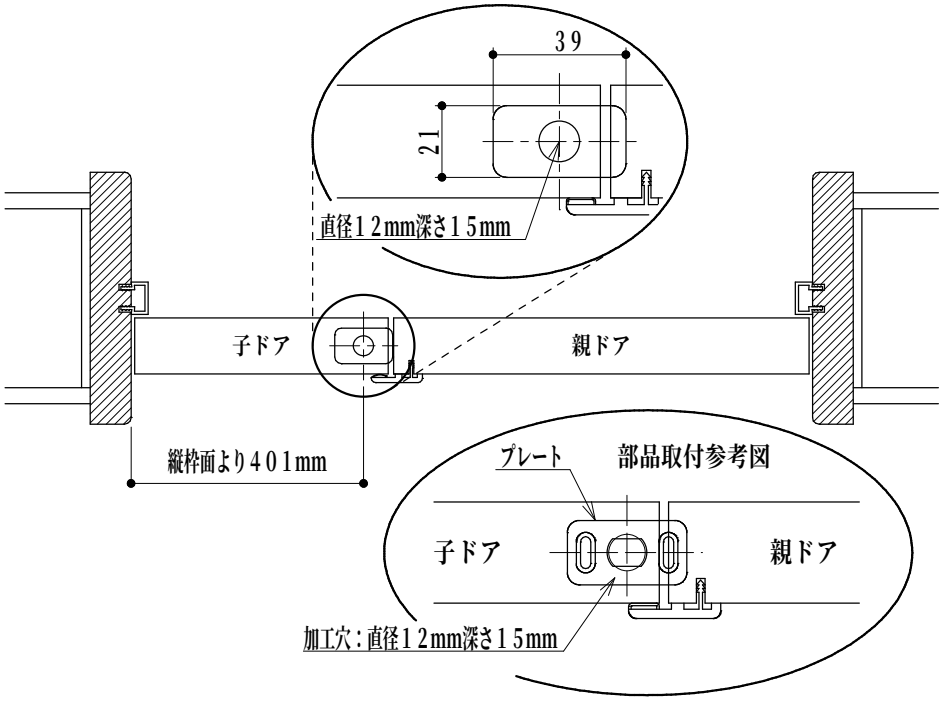
３－３．フランス落し受けプレートの取り付け　（親子ドアの場合のみ）

①子ドア本体が閉った状態で、子ドアに取り付けているフランス落しのツマミを上下させて、受けプレートを付ける位置を決めます。

②位置決めした印を中心に上枠と床に直径約１２mm深さ約１５mmの穴をあけてください。

③穴を覆うように受けプレートを同梱のビスで取り付けてください。必要であれば受けプレートの厚み分の掘り込み加工を施してください。位置については下図を参考にしていただき、上枠と床面の２カ所に取り付けてください。

④アルミ製の床付平型見切りをドア本体の下に使用する場合は、鉄鋼用のドリルで取り付け穴をあけてください。また、受けプレートを取り付けるためのビスの下穴もあけてください。

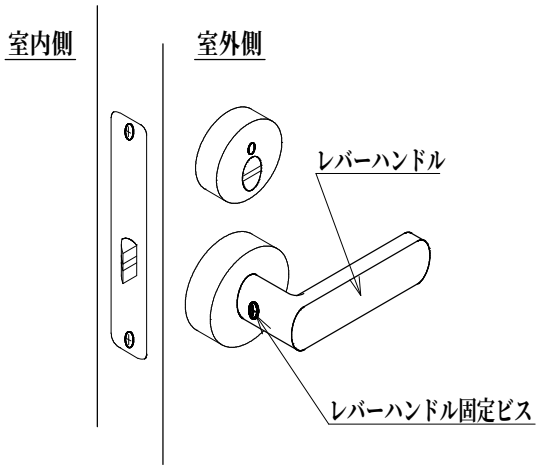


３－４．レバーハンドルの取り付け

■下記に注意して、詳しくはレバーハンドルに同梱しています取扱説明書をご覧ください。

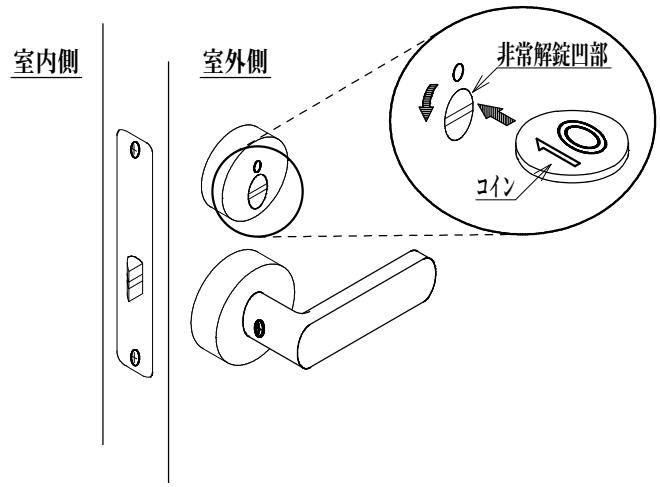
①

レバーハンドルを取り付ける固定ビスは、可能な限り室外側になるようにしてください。



②

レバーハンドルの非常解錠方法は、コインなどを使用してレバーハンドル上部にある非常解錠凹部を回転させて行ってください。



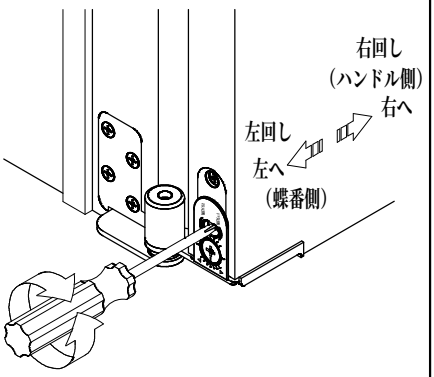
お願い　レバーハンドルの取り付けには電動ドライバーを絶対使用しないでください。
錠付きの場合は取り付け後、正常に作動するか確認してください。

4．施工終了後の調整方法

・建て付けの調整は、手動式プラスドライバーを用いて行います。

お願い　電動ドライバーは絶対に使用しないでください。

①左右調整ビスにより、ドア本体を左右に調整

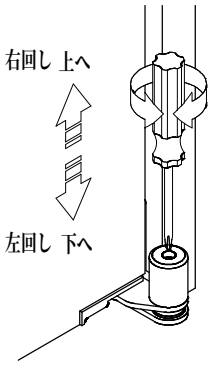


・左右調整ビスを右に回すとドア本体がレバーハンドル側に、
左に回すとドア本体が蝶番側に移動します。

調整範囲（出荷基準位置から）

右（レバーハンドル側）へ：2mm
左（蝶番側）へ：2mm

②上下調整ビスにより、ドア本体を上下に調整

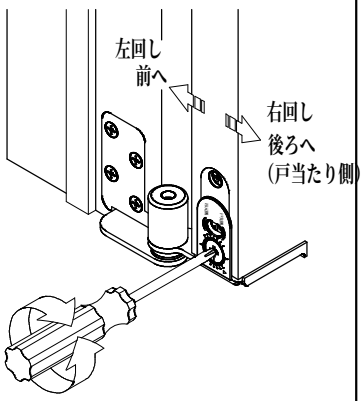


・上下調整ビスを右に回すとドア本体が上に、
左に回すとドア本体が下に移動します。

調整範囲（出荷基準位置から）

上へ：2mm
下へ：2mm

3前後調整ビスにより、ドア本体を前後に調整



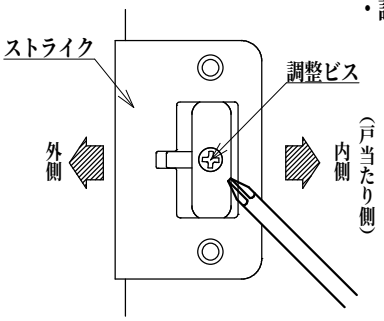
・前後調整ビスを左に回すとドア本体が前へ、
右に回すとドア本体が後ろ（戸あたり側）へ移動します。

調整範囲（出荷基準位置から）

前へ：1．5mm
後ろ（戸当たり側）へ：1．5mm

1目盛りで約0．5mm動きます。

④ストライクの調整



・調整ビスを回し調整します。

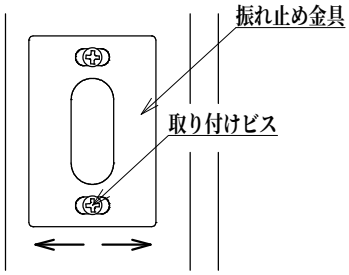
右に回した場合：ドア本体が内側
（戸当たり側）に移動。
左に回した場合：ドア本体が外側に移動。

ラッチがストライクの中で
ガタつく場合：右に回す。
ラッチがかからない場合　：左に回す。

調整範囲：内側（戸当たり側）に
2mm（親子ドアは2．5mm）

調整範囲：外側に
4mm（親子ドアは2mm）

⑤振れ止め金具の調整



ドアを開閉した際、ドア本体が振れる場合、取り付けビスを緩めて左右に振れ止め金具を動かして調整してください。

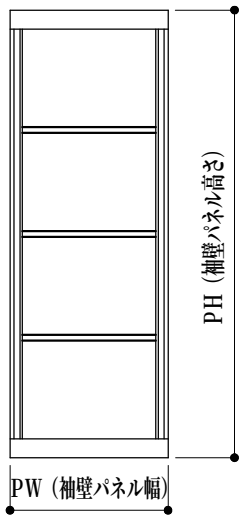
調整範囲：内側（戸当たり側）に2mm
外側に　2mm

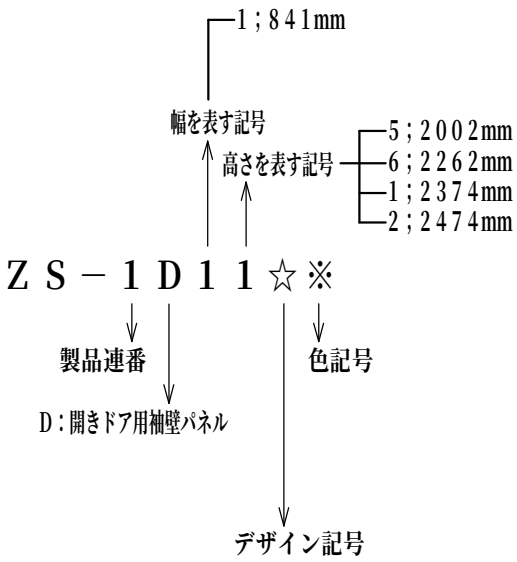
5．袖壁パネル部材・部品表

部材名・形状	入数	部材名・形状	入数
袖壁パネル本体	1	ＳＰビス３０mm （ドア本体側の縦枠側からの固定用）） φ3．3　30mm	6
		ＩＰビス （床および上枠への固定用） φ4．2　51mm	2
縦固定桟　22	1	ＳＰビス５０mm φ3．3　50mm	12
上固定桟　15	1	施工定規	1
下固定桟　18．5	1	施工・取扱説明書（本説明書）	1

6．姿図

■袖壁パネル


PH（袖壁パネル高さ）
PW（袖壁パネル幅）


1；841mm
幅を表す記号
高さを表す記号
5；2002mm
6；2262mm
1；2374mm
2；2474mm
ＺＳ－１Ｄ１１☆※
製品連番
D：開きドア用袖壁パネル
色記号
デザイン記号

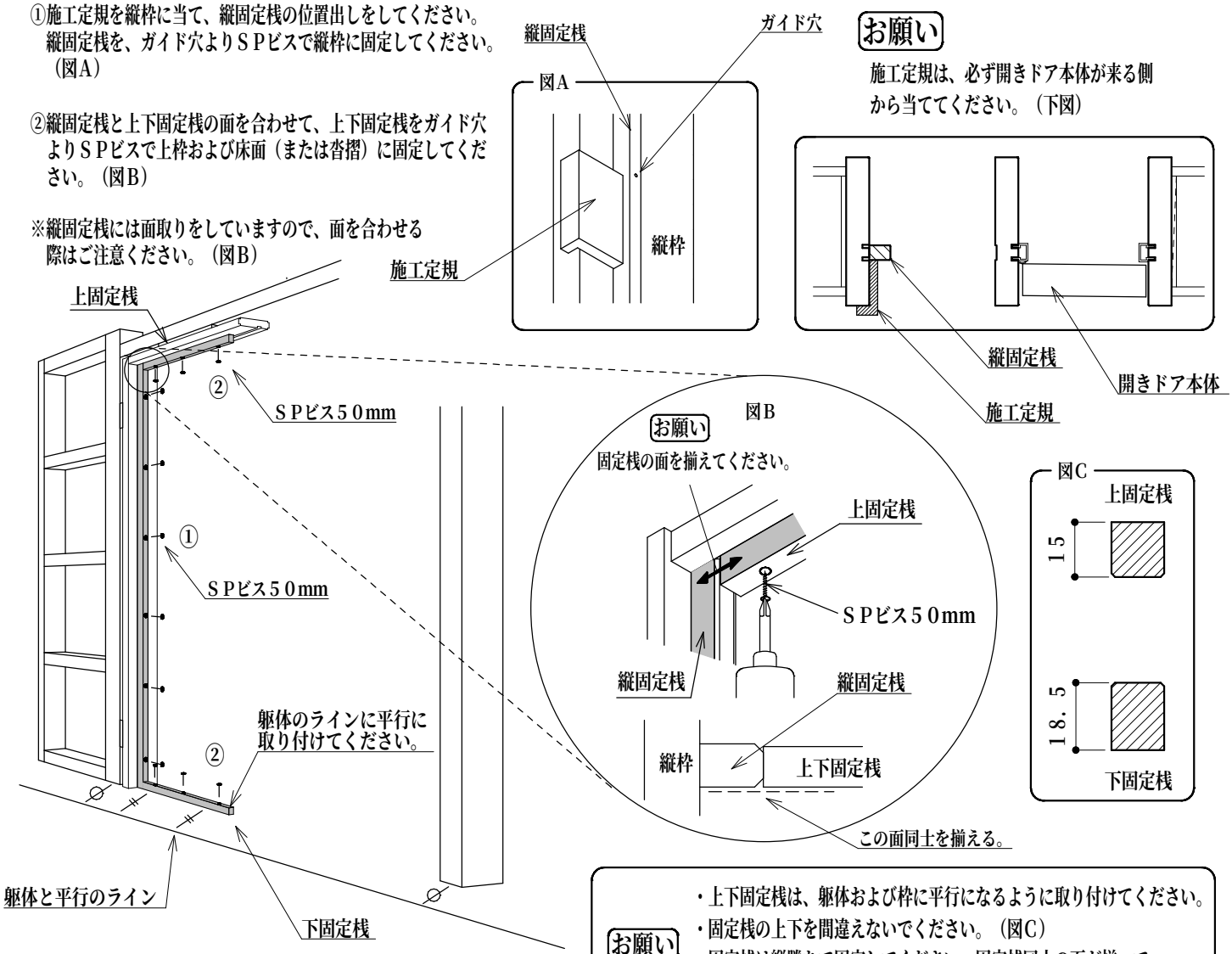
7．袖壁パネルの施工

7－1．固定桟の取り付け

①施工定規を縦枠に当て、縦固定桟の位置出しをしてください。
縦固定桟を、ガイド穴よりＳＰビスで縦枠に固定してください。
（図A）

②縦固定桟と上下固定桟の面を合わせて、上下固定桟をガイド穴よりＳＰビスで上枠および床面（または沓摺）に固定してください。（図B）

※縦固定桟には面取りをしていますので、面を合わせる際はご注意ください。（図B）

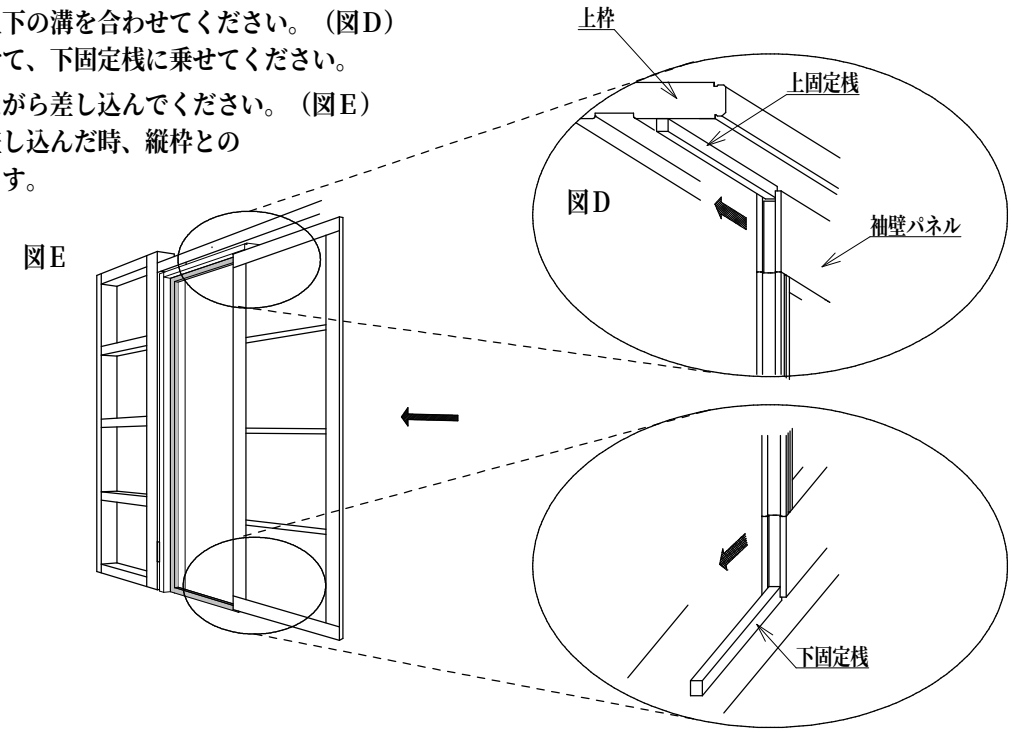


お願い
・上下固定桟は、躯体および枠に平行になるように取り付けてください。
・固定桟の上下を間違えないでください。（図C）
・固定桟は縦勝ちで固定してください。固定桟同士の面が揃っていないと袖壁パネルが正しく取り付けられない場合があります。

7－2．袖壁パネルの取り付け

①固定桟に、袖壁パネルの上下の溝を合わせてください。（図D）
※袖壁パネルを多少浮かせて、下固定桟に乗せてください。

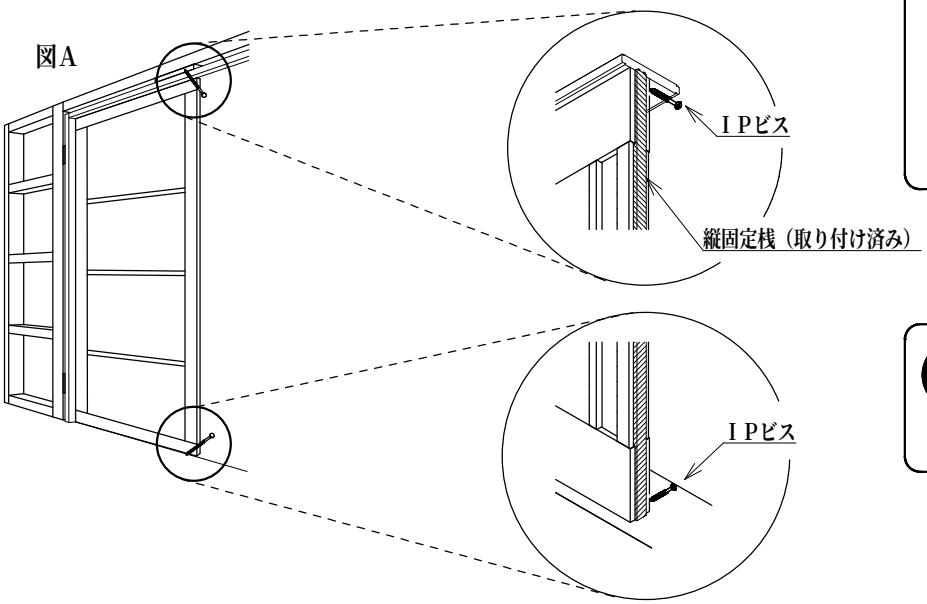
②袖壁パネルを横に滑らせながら差し込んでください。（図E）
※袖壁パネルを最後まで差し込んだ時、縦枠とのすき間は２mmとなります。



②袖壁パネルの木口面から、上枠および床（またはシート沓摺）に
ＩＰビスにて固定してください。（図A）

お願い
袖壁パネルにはビスの保持強度を上げるため、埋め木が付いています。
固定桟が割れないよう必ずφ３mmの下穴を空けてください。
上下それぞれ２５mmの位置から、斜め４５～６０°であけてください。（図B）

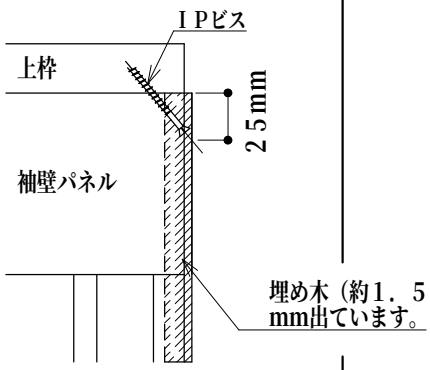
図A



図B

平面方向

お願い 上枠と袖壁パネルが面となるように留めてください。

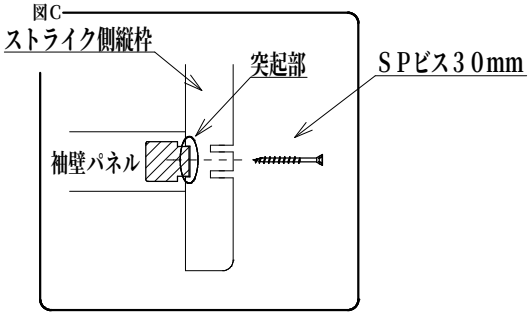


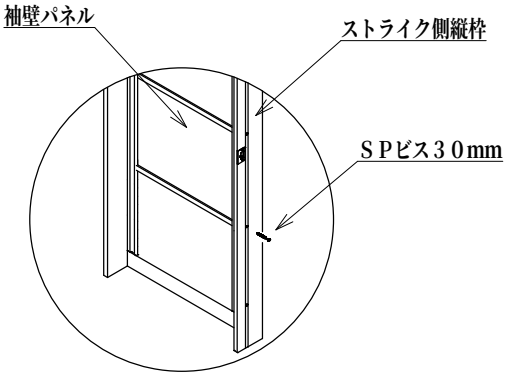
必ず上下２箇所固定してください。
固定しないと袖壁パネルが外れ、
ケガをする恐れがあります。

②～③にかけての枠の施工については、枠セットに同梱している説明書を参照ください。

③ストライク側の縦枠の溝を、袖壁パネルの埋め木にはめてください。
ガイド穴よりＳＰビス３０mmで袖壁パネルに固定してください。（図C）

図C





8．養生・お手入れ方法

8－1．　養生

・当て傷・擦り傷等がつかないように保護紙等で養生してください。

8－2．　お手入れ方法

・ドア本体や枠が汚れている場合は、水を含ませた雑巾を固く絞り、拭き取ってください。

・金具は柔らかい布で乾拭きしてください。

お願い　酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベンジン）などは絶対に使用しないでください。
シートのフクレやねじれ、塗装・メッキのはがれやサビの原因となります。

9．使用上のご注意

・ドア本体に寄りかからないでください。
転倒やドア本体の破損の原因となり、ケガをする恐れがあります。

・開閉にあたっては、ドア本体どうしのすき間や枠のすき間に手を置かないでください。
指を挟んでケガの恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。

・暖房器具などから発生する熱風、熱気が直接当たらないようにしてください。
ドア本体の反り、変色、火災などの原因になります。

・ドア本体に粘着テープでポスターなど貼らないでください。表面が傷む恐れがあります。

・ドア本体に水、油、殺虫剤などが付着しないようにしてください。
材質の特性により表面が膨れたり、シミ、変色などが発生する恐れがあります。

・使用中に異常を感じられたり不具合が生じたときは、取り付け部分などの確認をしてください。
ご自身で対処できない場合には施工店にご相談ください。

・ピボット蝶番の取り付けビスに緩みが生じた場合は、ビスの締め付けを行ってください。
緩んだままで使用されますとドア本体の開閉に支障をきたす原因となります。

・ドア本体や金具（レバーハンドルやピボット蝶番）にぶら下がったり、寄りかかったりしないでください。転倒やドア本体の落下・破損の原因となり、ケガをする恐れがあります。

・ドア本体を外す以外で上側のピボット蝶番を下方向に引っ張らないでください。
ケガをする恐れがあります。特にお子様には充分ご指導ください。

取り付け・修理・補修部品などのご相談は、販売会社・管理会社もしくはお求めの工務店・販売店へお問い合わせください。

永大産業株式会社
http://www.eidai.com
内装システム事業部

お客様相談センター
0120-685-110
受付時間　平日　9:00~19:00　土曜日　9:00~18:00
休業日　日曜日、祝日、年末年始
E-mail:cs@eidai-sangyo.co.jp

S444Ie1004nkEP第1版